

委員会だより

< 3月14日(日) >

【1】財務報告：99年2月度決算報告（甲斐さん）

(括弧内数字は99年度年間予算)

	当月収入	当月支出	99°収入累計	99°支出累計
一般会計	508,067	456,586	2,241,328 (6,367,268)	943,514 (6,267,268)
建設会計	143,636	0	1,750,812 (3,245,476)	0 (2,873,000)
愛の献金	29,342	41,100	524,991 (861,749)	41,100 (520,000)
信徒預金	0	9,702	191,673 (841,673)	9,702 (680,000)

【2】議題：

- 復活祭ミサ後のパーティー準備：
 - 行事委員と婦人会役員にて準備する。(イースターエッグ200個含む)
 - 予算は8万円以内にて準備する。
 - 内容はすし、サンドイッチ、オードブル、唐揚げなど。出来る人は持ち寄りも可とする。)
- 3月28日枝の主日の準備
枝の準備は典礼委員にて手配済み
- 事務室クーラーの入れ替えの件
 - 冷暖動作不良にて、入れ替え方向に決定。
 - 時期については、検討する。(花坂、福島氏)
- バザー実行委員会の人選
 - 委員会より、花坂、阿部、甲斐、福島、井上の各氏。
 - 壮年会3名、婦人会3名は3月21日定例会にて決定する予定。
- 湘南セミナー分担金
 - 3万円を納金済み。

壮年会だより

<3月21日(日) 8名出席>

- バザー準備委員の選出がなされ、壮年会として3名選出しました。第3頁に示されたとおりです。
- 壮年会が第2、4週のミサ後に開いているコーヒースロンの運営について、現状の当番4人から8人に増やして続けていくことにしました。
- 4月の聖書朗読者を次のとおり決めました。
4月4日 復活の主日 小野寺さん
4月25日 復活節第4主日 竹内さん
- 壮年会主催ハイキングを4月29日(祝)緑の日に実施することになりました。第3頁の案内の通りです。是非ご参加ください。

婦人会だより

<3月21日(日) 28名出席>

- 委員会報告
- バザーについて
 - バザー委員として阿部映子様と青柳恵代様のお二人にご活躍をお願いする事になりました。
 - リサイクルショップへのご協力ありがとうございます。引き続き宜しくお願い致します。
- 遠足について
 - 5月12日(水)品川水族館とカルメル修道会上野毛修道院の訪問に決定致しました。
 - 皆さんのご参加をお待ち致しております。
- 環境を考える会の一環として着物地を再利用してベスト作りをいたします。ご希望の方は石川様までお申し込み下さい。
- 信者の皆さんが教会内の施設を利用される場合の利用料は無料と確認されました。しかし未信者の方の場合はこの規定には該当しません。

次回例会は4月18日(日)、次回当番はD地区です。

お知らせ

ミサ当番表 (99年4、5月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
4/4	復活の主日	壮年会	美底
4/11	復活節第二主日	青年会	森田
4/18	復活節第三主日	婦人会D地区	大宮
4/25	復活節第四主日	壮年会	岩淵
5/2	復活節第五主日	壮年会	美底
5/9	復活節第六主日	青年会	森田
5/16	主の昇天	婦人会A地区	大宮
5/23	聖霊降臨の主日	壮年会	岩淵
5/30	三位一体の主日	婦人会A地区	美底

※当番の方は10分前には集合して下さい。
※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。
(萩原: Tel 802-6258)

洗礼

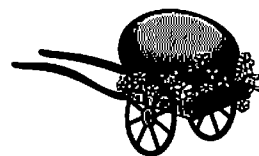
3月4日(木)
テレジア 宮崎 きぬさん(宮崎家御祖母様)
〒223-0013 横浜市泉区中田南4-19-38

3月15日(月)
マルタ 蟻塚 圭さん(1月3日生、七浦さんお孫さん)
〒634-0822 奈良県橿原市鳥屋町20-8-2-202

帰天

3月12日(金)
マリア 山崎 稔子さん
(山崎神父様の妹さん)

3月23日(火)
テレジア 宮崎 きぬさん(83歳)



今月の予定

復活の主日 4月 4日
委員会 4月 11日
聖歌の集い 4月 25日
サロン 4月 11, 25日
レジオ 4月 9, 16, 23日



第246回

中和カトリック教会
広報委員会発行
泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141
1999年4月4日



ありがとうございます ②

山崎 正俊



それを何処にやったのか、ふと見つけた雑誌「福音宣教」2月号での小論「西田幾多郎とキリスト教」、それにつづいての「作家・武田鏡村先生」の「乞食桃水の救済思想・キリスト教と禅僧をめぐって」によって打ちのめされた。恵みといわれるには、あまりにも調子のよすぎる御対面ではないか。——御摂理に違いない。私の人生には、これまではたびたびのことだが、こうした出会いがある。いま真夜中を過ぎたところ。さきのぼしをしていた夕食が夜食となった後、書き継ぐことになるのは得難いことに思われる。感謝の祈りをして休むことにする。ああ。——こうして、一歩前進できる。どうなることか。

第二バチカン公会議の「現代世界憲章」の草稿を書かれたと聞いたことがあって、それを読んだら、何処かで知識の内に加わったものに似ており、カルデン神父と一緒にいました。実はその頃、ルベール神父からシュヴリエ神父のことを教えられていて、プラドー司祭会の姿と入り交って、記憶の内におさまってしまい、その社会的な通念による習慣的な差別感情に対する反感とかさなり、その考えをきちんとまとめることに気が付かなかったことは、なんともオカシゲナことでした。ついで、新しい問題が目まぐるしく、何の順序もなく、中途半端な形のままでごちゃごちゃと押しよせてくるのに、頭の装置の調子が狂っているのもわからないまま、時にはきちんとまとまったものもあるから、条理が乱れているところなどは見おとし、夜昼のズレさえ関係して、別の道に踏みはずしているところも出てくるなど、予想もできない型に固まりかけてしまう。

あの、アルフレッド・アンセル司教が、その遺言状とかで、シュヴリエ神父の在り方をひっさげて割り込み、プラドー司祭会が、まったく遠くのほうから、「現代社会の、あまりにも非人間的なものは、イエズスさまの前に、どのような何を見せているのか」——シャルル・ド・フーコーは、アシジのフランシスコは、先輩シュヴリエ神父は何を主張しているのか。「昔のイエズスさまを文字どおりに真似するな」「十九世紀のシュヴリエは何をしたか」——現代の問題のなかで『その心を、心とせよ』——あの御聖体と十字架と馬小屋と、そこに居合わせた人たちの、あの心と形とは、何を伝えているのか。

捨て聖(ステヒジリ)の一遍さん。乞食の桃水さん。市の聖(イチノヒジリ)の空也上人(コウヤショウニン)の「捨ててこそ」。法然さんや最澄さんは弘法大師といさかい。ゆがめられた日蓮さんや親鸞さんの御姿が見え隠れする。レフ・トルストイ爺さんが割りこみの自己主張。当然のように私は、どうにでもしなされとか、ふてくされる。忘れなさんなよ。いつでも頼り甲斐のある「時の氏神様」などが、まだ後にひかえておられる。

この齢になって、これまで隠されていたものが明らかにされて、当分はこのまま、カトリックの神父として生き続けたいのですからね。事の好し悪しなど、おむこうさまにおまかせして、さらにゆきましようよ。キラクにね。実はどうなろうと、こいつばかりは神様だけのお仕事ですから。そうです。大まじめですよ。大真面目ッ。

(1999. 2. 28)

私の信仰のルーツ — ザビエル随想 —

小野寺 功

今年は聖フランシスコ・ザビエルが初めて鹿児島に上陸してから四百五十年ということで、色々の記念行事が予定されています。川崎市でも三月半ばまで「大ザビエル展」がありました。ザビエルは日本に来た宣教師第一号ですが、彼のまいた種は、何らかの形で私の信仰のルーツにもなっていると感じています。

それというのも、もう五十年も前のことになりますが、昭和二十四年にザビエル渡来四百年祭がありました。そしてザビエルの奇蹟の右手とよばれた「聖腕」が日本各地をめぐり、いつか盛岡市の白百合学園で記念ミサが催されたことがありました。

当時の私は、マルキストに近い合理主義者でしたが、このことを新聞で知り、今どき奇蹟の聖腕など信ずる人々の気が知れないと、わざわざ学校の授業をさぼって、白百合学園の会場に出向いていきました。そしてそこで初めてカトリックミサに接し、その聖なる雰囲気には深い印象を受けたのを覚えています。

これが動機で、私も次第にカトリックに関心を持つようになりましたが、内心は絶対的な真実を探し求めていて、「奇蹟の右手」をバカにしたつもりが、かえって逆にザビエルによって招かれていたのかも知れないと思うようになりました。

これがザビエルとの最初の出会いで、次にさらにその名を深く心に刻むことになったのは、上智大学のボッシュタウンという学生寮に入ってからのことです。戦後のアメリカ軍の兵舎をそのまま移したカマボコ型の寮の舎監は、ドイツ人のボッシュ神父でした。

親父といわれたボッシュ神父には、入寮の時から大変お世話になり、私が困っているのを知ると、寮は定員一杯なのに、一人の休学者の部屋に私を入れて、学業を続けるように配慮して下さったことがありました。

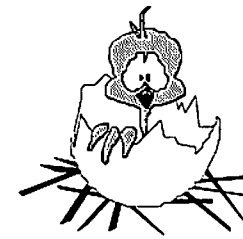
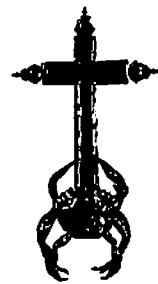
私はこのボッシュ神父に要理を習い信者になったのですが、一度だけどういうわけで日本に来られるようになったのかを質問したことがあり、その時の答えは次のようでした。

「私が日本に行きたいと思った直接の動機は、ギムナジウムの生徒の時、フランシスコ・ザビエルの伝記を読み、非常に感動したことにあります。若い頃の私は、ザビエルのようにすべてを神に捧げ、百人、千人、一万人という具合に沢山の日本人を信仰に導きたいと、英雄的な理想に燃えて日本にやってきたのです。」「……しかしその夢は、日本に来て何年もたたずに破れ、日本の布教はそんな生やさしいものでないことを知りました。あとは君達が見て、知っての通りです。講義以外は、沢山の寮生の世話に明け暮れ、ごく僅かの人達に要理を教えるという毎日です。」

夕陽を浴び、いくぶん孤独な表情で語られたこの言葉を、なぜか私は今でもはっきり覚えています。ここにもザビエルによってつき動かされた人生があり、その人から私は福音の種をいただいたので、私の信仰のルーツは間違いなくそこにつながっているような気がします。

それから第三は、私の信仰の自覚からくる問題意識で、ザビエルの書簡集を読んで考えさせられるのは「日本人とキリスト教の問題」です。書簡集によると、ザビエルの日本人の評価は高く、「第一に、私たちが交際することによって知りえた限りでは、この国の人々は今まで発見された国民のなかで最高であり、……日本の地はキリスト教を長く守り続ける信者を増やすためにきわめて適した国です。」とあります。

しかし果たしてこれが現在でも通用するといえるのでしょうか。実際は遠藤周作が「沈黙」という作品で問題提起をしたように、神父たちがまともな苗一つ育てぬこの痩せた土地を、肥沃な土壌と思いこんだに過ぎないものではないでしょうか。これは日本に最初の福音の種をまいたザビエルにちなんで、私が特に考えてみたい問題の一つです。



今年度バザー準備委員が決まりました。

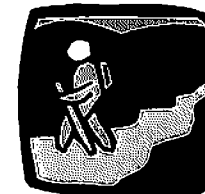
10月31日(日)開催予定の今年度バザーの準備委員が下記のとおり決まりました。
委員が中心になって、準備を進めてまいります。例年どおり多くの皆様のご協力をお願い申し上げます。

➤ 教会委員から : 花坂、位田、甲斐、福島、井上
➤ 壮年会から : 平瀬、竹内、宮崎
➤ 婦人会から : 阿部、青柳 (敬称略)

壮年会主催 春のハイキングのお知らせ

平らなコースです。多数の参加をお待ちしています。

- 実施日 4月29日(木・祝) 雨天中止
- 目的地 円海山周辺 歩行約4時間
- 集合 JR戸塚駅 2階改札口 8時(時間厳守)
- コース JR洋光台駅—円海山—天園—明月院—JR北鎌倉駅
- 持ち物 弁当、水筒、雨具、ハイキングシューズまたは登山靴
- 交通費 約1000円 各自負担
- 解散 JR戸塚駅 15時頃
- 申込 4月25日(日)まで
- 担当 壮年会 山田さん TEL 801-0046



愛の文明に生きるつどい

横浜教区カトリック婦人同志会 信徒の養成チーム主催

大聖年に向けての準備 第三年

— 父なる神 —

☆日常の中から真の回心を……☆
心の巡礼の旅へ!

テーマ
講 師
場 所

「福音と世界」御父の愛の実現
池長潤大司教 大阪大司教区、教区長
横浜カトリックセンター

〒235-0024 横浜市磯子区森が丘2-15-20

TEL 045-842-4455 FAX 045-847-3899

日 時

1999年4月16日(金)

10:30 受付開始

11:00 第一講話

12:00 昼食

13:00 第二講話

14:30 ごミサ

15:30 終了

参加費

500円(昼食はご持参ください)

カトリックセンターでも昼食を申し込みます。一食600円

昼食申し込み先: 阿部 映子 045-881-2676

申し込み締め切り日 4月13日

連絡先

阿部 映子 045-881-2676

佐々木 美津子 045-810-0066

山田 倫子 0468-52-5597

遠藤 洋子 090-3215-5392

園田 鈴子 0468-24-4194

湯沢 ふじ江 0468-34-5642

